

漢法苞徳塾資料	No. 076
区分	入門講座資料（15期用）
タイトル	経絡の相関関係について
著者	八木素萌
作成日	1996.02.04

◇三陰三陽と経絡

		手	足
陽経	太陽	小腸	膀胱
	陽明	大腸	胃
	少陽	三焦	胆
陰経	太陰	肺	脾
	少陰	心	腎
	厥陰	心包	肝

◇臓腑の表裏関係と六合関係

『素問』王註

肺と大腸	一合	手太陰経（肺）	手陽明経（大腸）
心と小腸	二合	手少陰経（心）	手太陽経（小腸）
心包と三焦	三合	手厥陰経（心包）	手少陽経（三焦）
脾と胃	四合	足太陰経（脾）	足陽明経（胃）
腎と膀胱	五合	足少陰経（腎）	足太陽経（膀胱）
肝と胆	六合	足厥陰経（肝）	足少陽経（胆）

『靈枢』経別第11

一合	足太陽	足少陰
二合	足少陽	足厥陰
三合	足陽明	足太陰
四合	手太陽	手少陰
五合	手少陽	手心包
六合	手陽明	手太陰

◇十干・十二支と臟腑経絡

五行	木		火		土		金		水	
十干	甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸
臟腑	胆	肝	小腸	心	胃	脾	大腸	肺	膀胱 三焦	腎 心包
陰陽	陽	陰	陽	陰	陽	陰	陽	陰	陽	陰

『鍼経指南』（元・竇漢卿）より

◇十干化五行表 亦「五門十変」と称す

五門	甲	乙	丙	丁	戊
	己	庚	辛	壬	癸
化	土	金	水	木	火

以十天干紀日、紀時、則十日或十時一周転。

結合十二支排列成六十甲子以紀時、則五日一周転。

甲乙丙丁戊五日、共六十時辰。己庚辛壬癸五日、共六十時辰。

前後互相重合、成為一陽干、一陰干的配偶關係、

其五行屬性則變成、土金水木火。

◇所謂【『難経』の長生關係】について

四十難に「……鼻者肺之候 而反知香臭 耳者腎之候 而反聞声 其意何也……」と設問して、これを説明している。その説明の論理が「五行の長生關係」論に基づいたものであると、多数の注釈者によって理解されている。

この「長生關係論」を運用する『難経』四十難のような論理転回の様式は、配穴論への極めて重大な示唆となっているかもしれないと思われる。

凌耀星の『難経語訳』の「四十難」解説には、『淮南子・天文訓』の中の十二支と五行の關係のかなり複雑な構造を論じている部分「…三辰皆水也…（申・子・辰）」のところを引用して在来の説明よりも詳しく論じられている。

◇臟腑夫妻表

甲	乙	丙	丁	戊
胆	肝	小腸	心	胃
己	庚	辛	壬	癸
脾	大腸	肺	膀胱	腎

『鍼経指南』(元・竇漢卿)より

◇回陽九鍼穴

初出は『鍼灸聚英』(明・高武)の「卷4・下、回陽九鍼歌」

瘧門・勞宮・三陰交・湧泉・太谿・中脘・環跳・三里・合谷

この他「柳谷素霊」の『鍼灸医学摘要』のp.121の「興奮刺激・〈気付鍼〉」部分を参照のこと。

◇八穴主治関係表

